



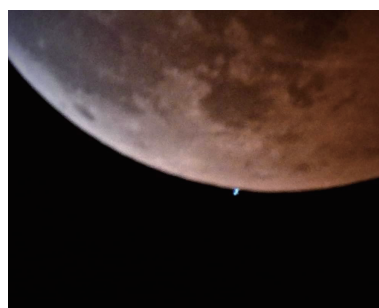
安藤眼科医院

ANDOEYECLINIC

Annual Report 2022

医療法人社団 安藤眼科医院

高度な医療 そして やさしい心配り
患者様の明るい世界、輝く笑顔が見たいから成長し続けます



Nikon COOLPIX900 ズームレンズにて撮影

◇安藤眼科医院

〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 965-1
TEL0465-83-4545

◇安藤眼科医院小田原クリニック

〒250-0862 神奈川県小田原市成田 168-5
TEL0465-38-0344

◇安藤眼科医院南足柄クリニック

〒250-0105 神奈川県南足柄市関本 569 ヴェルミ 2 1F
TEL0465-73-1515

<https://www.andoganka.com>

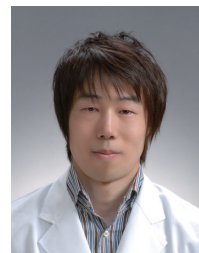
info@andoganka.com

目 次

院長挨拶	理事長・院長 安藤 浩	1
学会発表		2
未来と AI とコロナと私	副 院 長 江口 亮	3
手術室に入るとき	名誉院長 安藤 展代	4
2022 年に行われた手術		5
通勤風景	医 長 石川 暢子	6
小田原ならではの眼外傷	医 長 近藤 亜紀	6
こちらのワクチンもお忘れなく…	医 長 戸野塚敏恵	7
医師会・眼科医会		7
小田原クリニック 2 階改装工事について	手術室長 木村 智嘉	8
小田原クリニック 2 階改装工事	看護師長 松山さやか	8
小田原クリニック 2 階リニューアルしました！		9
フリー	事務部長 加藤 晃仁	10
小田原北条氏（後北条氏）の真実	検査部長 井上 拓己	10
コロナ禍で広がるスマホ斜視	視能訓練士 山口 優希	10
はたらくという事	臨床検査技師 成瀬 弘紀	11
バイク購入と半年乗ったインプレッション	臨床検査技師 梅本 和希	11
新入職員に聞きました。安藤眼科医院はいかがですか？		
あっという間の一年	事 務 権守 愛莉	12
挨拶は先手を取って一方通行	ドライバー 田代美佐夫	12
学ぶことが多かった 6 ヶ月	検 査 瀬戸 桃子	12
半年を振り返って	臨床検査技師 飯嶋希和子	12
2022 年の思い出		13
改装・修理・点検		13
学会・勉強会		14
送迎車「すっきり号」マネージャー補佐になって		
事務兼小田原ひとみすっきり号マネージャー	土屋 志帆	14
ひとみすっきり号運行		14
スタッフ		15
2022 年皆勤賞		15
退職者		15
編集後記		15

院長挨拶

理事長・院長 安藤 浩



安藤眼科医院のアンニュアルレポートをお手に取っていただきありがとうございます。安藤眼科医院は COVID-19 の時々の盛衰の影響を受けながら、2022 年をおよそ健全に乗り切っていました。医療連携を続けてくださる近隣の先生方、医療従事者の方々、多くのご教示をいただける大学病院の先生方、企業の皆様、そして地域の皆様のおかげで、現在の安藤眼科医院が存在できています。本当にありがとうございます。

2022 年には大きな診療行為の拡充がありました。元東京大学教授の新家眞先生に当院に定期的に来ていただけるようになったことです。当院は、年間 414 件（2022）と神奈川県西湘地区で最大の緑内障手術件数を担っています。ここに、緑内障分野の第一人者である新家眞先生の診断・考察が入ったことの意義はとても大きく、当院に来ていただく地域の皆様や、地域の眼科の先生方への貢献は計り知れません。診断や方針に悩む症例について、新家先生の広く深い知識と考察をお借りして、しっかりとした診療ができるようになりました。思い起こせば私が東京大学の医局に入った時、新家先生には、とても丁寧に、そして厳しく眼科学の基礎を教えていただきました。私が眼科学の面白さと奥深さを知るのは新家先生のおかげです。新家先生の静かで鋭い語り口は、久しぶりにお会いしてみるとさらに切れ味と多重性を増していました。新人だったころの私が敬服し、現在の私が深く尊敬するところです。

外来の拡充に伴い、当院の手術件数は 5 頁「2022 年に行われた手術」で記載した通り増加いたしました。水晶体再建術は前年比 1.09 倍、緑内障手術は 1.17 倍となりました。過去を振り返ると、COVID-19 が世界に現れた 2019 年から 2020 年には、必須手術である緑内障手術まで減少してしまいました。そこで反省を含め、2021 年からは緑内障手術や糖尿病網膜症治療等の必須の眼科診療行為を減弱させないように注意し、院内感染を防ぐ手立てを打ち続けながらバランスをとりなおしました。やっと 2022 年に至ったところで、当院での医療行為を順当に行えるようになり、白内障手術、緑内障手術ともに増加傾向にのせられたのかと思います。必要な医療行為をしっかりと行えるほっとした 1 年でした。

医療行為を多く行えるようになった原因の一つは、バーチャル会議・学会による時間設定の効率化にもあります。今までは会議を開催するには、往復の時間を考えながら互いのスケジュールを調整し、多大なエネルギーが必要でした。ところが、バーチャルミーティングの発達によりネット接続環境さえあれば会議ができるようになり、会議予定の時刻設定を合理的に行えるようになりました。仕事を基本的には診療所で行っている仕事柄、この変革はかなりのインパクトがありました。しかし、時間がうまく使えるようになる一方で、遠隔会話では独特の疲れが起きることが報告されており、また、創造性が失われる恐れも指摘されている（<https://www.nature.com/articles/s41586-022-04643-y>）ので、注意も必要です。まずは気軽に Web で話し合い、大切なことは対面で話し合う使い分けが重要だろうと考えています。眼科学の学会も多くがバーチャルとリアルハイブリッドが行われています。リアル会場には、多くの人々と話し合い知識を得られるメリットがあります。また、バーチャルによる参加の道が開けることで、私生活とのバランスを取りやすくなり、遠隔地の学会でも楽々と話を聞けるようになりました。オフラインとオンライン双方の良さを生かすために、これからもハイブリッドの学会が増加しながら継続してくれることを願っています。

2022 年の安藤眼科医院でのもう 1 つの大仕事は、手術を担う小田原クリニック 2 階の手術待合フロアの改装でした。COVID-19 以前に入院する場合を前提として出来上がっていた建

物の構造が、COVID-19 後の日帰り手術のみの人々には動きにくくなっており、これを改造するのが目的でした。入院した人々が安心して眠るためには、囲まれて安定した空間が必要です。それに対して日帰りで昼間に行動するには、囲い込まれた袋小路は動きにくく、むしろ回遊できる動線が必要になります。来院者の動線がぶつかり合わないよう、院内職員が来院者と重ならず移動できるように、院内の安全確認が常に複数方向からできるように、知恵を絞って構造を考えました。また、快適な環境を作れるようにインテリアの色調にも気を使いました。初めにコンセプトと方向性を私が出しました。すると、院内の優秀なスタッフが次々と素敵なアイデアをだしてくれて、設計や施工の人々とともに、とても風通しがよく、明るく、落ち着いたフロアを作ってくれました。動きやすくなったフロアは、面積は同じはずなのに今までよりかなり広く感じます。改装と企画に尽力してくださった関係業者の方々と当院スタッフにとっても感謝しています。当院に手術を受けに来る人々は年間のべ 2600 名を超えます。人々ができるだけ快適に医療を受けてもらえたらよいと心から願っています。

今年の私個人の経験として、日本ではあまり出会わない言語のひととのコミュニケーションに苦勞し、その人に煩わしい思いをさせてしまいました。その後、クラウド上の翻訳ソフトを使いこなせばもう少し楽にしてもらえたはずであることを知り、反省しました。少数派の人々でも使いやすい普遍性は、多数派の人々にも使いやすい社会を作る素地になります。医療機関は社会的少数派になりえる人々が集まる場所です。最新鋭の医療をそろえるのは当院の姿勢の基本をなしていますが、それに加えて、多様性社会に対応できる幅の広い知識の取得と変革を押し進める必要があると感じました。

2023 年に向かって、新規画像解析ソフト、新しい方法の緑内障手術等、医療機械と技術には欲しいものがずらりと並んでいます。また、外来の新しい呼び出しシステム、職員の待遇改善、生産性の向上と、院内の改革事項も山積みです。過去数年の情報網の爆発的な発達と、これから再開される世界との交流で、次々と社会が変わっていくことと思います。安藤眼科医院の内外が社会の変革にしっかりとついていけるように、そして、私と当院が、社会に対してさらに良い方向へ変革の一押しをできるように努力していきたいと思っています。

これからも安藤眼科医院をよろしくお願い申し上げます。

■学会発表

4 月 14 ~ 17 日 日本眼科学会 (大阪)

学術展示：白内障の術中 SD-OCT による水晶体解剖学的パラメーターの検討

Lens anatomy parameters with intraoperative SD-OCT in cataractous eyes

近藤重紀

10 月 13 ~ 16 日 日本臨床眼科学会 (東京)

学術展示：混濁のために摘出を要した Lentis Mplus 眼内レンズ 3 例の組織学的検討

Histological studies of three cases of Lentis Mplus intraocular lenses

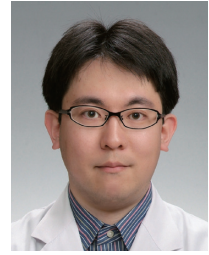
岩西宏樹 石川伸之 雑賀司珠也

安藤展代



未来と AI とコロナと私

副院長 江口 亮



子供の頃、ぼんやりと未来を予測するのが好きだった。といっても当てずっぽうにこういう未来だったら良いのにと願望を抱くのではなく、その時点で自分の持っている知識と知恵を総動員して未来はこういう方向へ進んでいくだろうという予想を立てるのである。当然外れることが多いのだが、実は意外にいい線を行っていた予想もある。

元来趣味の少ない人間だが、囲碁は多少できる。高校生の頃、プロ棋士というのは神の如き存在だった。初心者で0、究極の存在を100としたとき、自分の実力が50、プロは90-98くらいのイメージを持っていた。つまり、プロ棋士はかなり究極に近い実力なのだと思っていた。数年前にGoogle傘下のDeepmind社が革命的な囲碁AIを生み出した。そのAIは囲碁のルールだけ教えられた状態からAI内部で自己対戦を繰り返すことわずか数日で最強の人間を破ることができた。何百年の人間の叡智の積み重ねがわずか数日のAI学習に負けたということだ。その結果わかったことは、プロの実力は実は98ではなく、たかだか70くらいに過ぎず究極とは程遠かったということだ。人間がある程度「理解が進んだ」と思っていたこともまだまだ完全な理解には程遠いのだなと感じた。たった一つの小さな事柄のようだが自分の人生観には意外に大きな影響を与えたできごとだった。

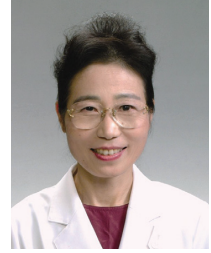
最近では行動経済学などの進歩により人間の決定の非合理性についての研究が進んできた。人間の判断は意外にその場の状況に影響を受けるし、非合理的だということがわかってきた。我々の社会では合理的で正確な判断を下されるものだと期待される状況が多い。裁判官は一切の先入観を排除して判決を下すというが果たしてそんなことが本当に可能だろうか。医師は目の前の患者に最良と信じる診断・治療を行っているがそれは本当に正しい診断・治療なのか。政治家は自分の信念を貫き、国家にかかわる大きな懸案事項を議論すべきだが、現在の状況はマスコミや世論に影響を受けすぎではないか。不完全な人間の能力には期待せず、むしろAIに判断を委ねた方が良い社会が築かれるのではないだろうか。・・・そうか、あらゆる場所に監視カメラをつければ、公共に反する行動をする者を排除することができる。では、さらにすべての人の行動をすべて記録するようにして・・・だが、これでは昔からSFで描かれていた典型的なディストピアだ。ただ、時代の流れが戻ることはなく、先入観がなく、より正確な（と思われる）判断を下すことができるAIとどの分野でこういった形で付き合っていくかは今後数十年の大きな議題となるだろう。

自動車の状況が興味深い。良くも悪くもしだいにレベルの高い（人間の関与の少ない）自動運転車が増えてくるだろう（私は大歓迎だ）。そうすると事故は確実に減る。運転者にとっても歩行者にとっても間違いなく良いことだろう。自動運転そのものの良し悪しを考えても仕方がなく、自動運転のAIを発展させるのに並行して、事故が起きた時の責任など社会的、法的なコンセンサスを得ることが必要となる。いったん得られたコンセンサスが他分野に広がるのにはそれほど時間はかからないだろう。

「コロナ禍」と呼ばれ始めてからすでに3年近く経過した。コロナ禍でのマスク生活はいつまで続くのだろうか。当時の状況を考えれば、コロナ発生初期に強い行動制限を行ったことは正しかったであろう。しかし、しだいに病態が理解され、各国で通常通りの生活が戻っている今でもわが国ではいまだ皆、頑なにマスクを着けている。これも人間の非合理性の一つの現れか。我々大人はまだ良いが、気の毒なのは子供たちだ。本来、お互いじゃれあう年齢の子供がいまだに黙食を強要され、運動会や修学旅行も通常通りの形で行われない。思い出を奪われた子供たちに対して、いったい誰が責任を取るのだろうか。

手術室に入るとき

名誉院長 安藤 展代



水曜日、木曜日の午後私は内眼手術（主として白内障、緑内障手術）のために手術室に入る。着替えて手術室に入るとき、長距離走のスタートラインに立つ感じがする。20件近い手術を事故無く走りきる必要があるのだ。カルテ上で第1例目の確認をする。消毒が終わっている患者さんの眼の上に顕微鏡の光を持って行くとき、できるだけんびりした声で「○○さ～ん、まぶしいですけど我慢してくださいね～、乱視も治す良いレンズを入れるからまっすぐ見ていてくださいね～」とか、「近眼も治るから楽しみにしてくださいね～」などと声をかける。顕微鏡のピントを合わせると、今度は100m走のスタートラインに立つ気持ちになる。100mレースの時はスタートからゴールまで選手は息を止めて走るのだと聞いたことがある。白内障手術は10秒では済まないから息を止めるわけではないが、一気にゴールまで走りきる気持ちは多分同じだろう。

このような術者は途中で患者さんの準備が遅れたり、早すぎたり、道具の準備が不行き届きだったりすると、調整にふと戸惑ったりするものだが、その点当院の手術室はスタッフが極めて優秀で信頼できるのはとてもありがたく、いつも感謝している。手術の様子は準備をする看護師がモニターで見ており、進行具合に合わせて患者さんの準備をしているが、一方、二つの手術室の間にある準備室で、手術室長はモニターと手術室の様子を直接見ながら両室の進行に合わせて看護師と連絡を取り、早すぎず遅すぎず患者さんが手術室に到着するようにしてくれているようだ。一人の術者が二つの手術室を往復している場合はまだわかりやすいが、複数の術者が入れ替わりながら手術をしている場合の調整はいかばかり難しいだろうと思うが、何時もとてもスムーズである。私はそんな時はお任せ気分になり、「今度どっち？」と訊き、「先生Ⅱ室です！」と言われたら「ハイッ！」と言ってⅡ室に飛んでゆく。気分はすっかり手術室長の子分である。

COVID19の騒ぎが始まった頃、手術はどうしたら良いのかが問題になった。当院も受診間隔を開けたり、患者さん側からの受診控えもあり、一時患者数は減少したが、周辺の公立病院が手術はおろか外来まで休診にしたため、必然的に当院への期待、特に手術への期待が高まった。院長も手術続行を決めた。そこで希望者には両眼同日手術を試みることにした。当院はここ10年以上術後眼内炎を経験していないことも自信となった。私はさらに、ドレーピングと消毒も自分ですることにした。看護師が患者さんを手術ベッドに乗せ、モニターを付け、酸素を流し・・・などの準備をしている間に私はドレーピングを始め、看護師側の準備が済むころには消毒も終わる。そして第1眼に取り掛かる。そして100mを走りきり、「終わりましたよ～、上等なレンズが入ったから安心してくださいね～、続いてもう一つの眼のお支度をしますからね～」と言って第1眼に眼帯をする。そしてカルテを見て次の眼の予習をし、手袋を替え、第2眼の準備にかかろうとする。この間おそらく1分くらいだろう、その間にスタッフは第1眼の使用済みトレイを片付け、第2眼のためのトレイに素早く入れ替えてくれる。もうそこに新しい道具とドレープが待っていてくれるのだ。実は始めはこれが間に合わなかった。自分でトレイを取りに行ったりした。ところがあっという間にそれが間に合うようになった。とても素晴らしい。

難症例の場合は始めから1500m走とか、5000m走とかにペースダウンする。スタッフもすぐそれを感じ取り、次の準備を遅らせたり、順番を入れ替えたりしてくれる。このように私は素晴らしいスタッフのおかげで、今日もまた緩急取り混ぜた長距離を楽しく走り終える。「濁りが取れて明るくなりましたよ～」「今日で近眼ともお別れ、記念の日になりますよ～」などと言いながら眼帯をして終了。「お疲れさまでした、ありがとうございました。」と心から私は感謝の言葉を繰り返すのである。

2022 年に行われた手術

2021 年 12 月から 2022 年 11 月までの手術件数は 3597 件でした。

内眼手術	2022年	2021年比
水晶体再建術	2854	1.09
多焦点眼内レンズ(自由診療)(内数)	77	1.44
多焦点眼内レンズ(選定療養)(内数)	11	
緑内障手術	414	1.17
硝子体手術	36	1.16
合計 (a)	3304	1.10

外眼手術	2022年	2021年比
翼状片	77	0.88
眼瞼手術	76	0.92
霰粒腫	12	0.60
PTK	22	0.92
その他	15	1.25
合計 (b)	202	0.89

視力矯正手術	2022年	2021年比
ICL	12	0.80
LASIK	6	0.38
SMILE	70	1.23
PRK	0	0.00
エンハンス	3	1.00
合計 (c)	91	0.99

硝子体注射	2022年	2021年比
バビースモ	19	0.54
ベオビュ	20	
ルセンティス	92	1.23
アイリーア	1139	1.13
合計	1270	1.13

手術合計 (a+b+c)	3597	1.08
--------------	------	------

マキュエド後部 テノン嚢内注射	21	0.91
ボトックス	26	1.30

2022 年に行われた手術は 3597 件で前年比 1.08 倍と増加した。内眼手術は水晶体再建術 1.09 倍～緑内障手術 1.17 倍と増加した。11 月から選定療養を導入したことにより、多焦点眼内レンズの希望が増えていることが感じられる。視力矯正手術は横ばい、硝子体注射は増加傾向にある。一方外眼手術が減少傾向にあるのは内眼手術に押されて遅れがちになっているためと考えられる（待機時間が長くなっている）。

水晶体再建術 2854 眼中破嚢は 19 眼 (0.67%) で起こった。うち予定通りの手術を敢行できたのは 3 眼 (15.79%)、術式変更または IOL^{※1}を変更して終了したものは 16 眼 (84.21%) であった。また、毛様小体脆弱（水晶体亜脱臼あるいは脱臼も含む）で CTR^{※2}を入れた症例は 73 眼 (2.56%) であった。うち CTR を入れたのみで予定通りの手術を行ったものは 65 眼 (89.04%)、IOL を変更したものは 4 眼 (5.48%) であった。

破嚢、毛様小体脆弱（水晶体亜脱臼あるいは脱臼も含む）あるいはその両方のため一次的な IOL 挿入ができなかった症例は 5 眼 (0.18%) であった。

※1：IOL：intraocular lens：眼内レンズ

※2：CTR：capsule-tension ring：水晶体嚢拡張リング

安藤 展代 木村 智嘉



通勤風景

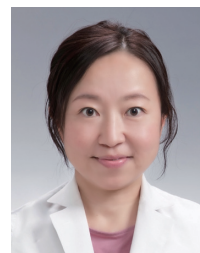
医長 石川 暢子



曜日により出勤先が変わる生活をしている。スケジュールはほぼ固定しているが、変更があると間違えないように緊張する日が当日まで続く。この数年コロナ禍の中、通勤風景は大きく変わった。緊急事態宣言前から電車の中では皆マスクをしっかりと着けていて、最近まで会話を控えるようアナウンスが流れていた。今も車内は大変静かである。咳やくしゃみをするなどマスクをしていてもとんでもない、という緊張感の中、通気のために開けてある窓から入ってくる花粉の攻撃にあい、自分と周囲の人々の心の平安を考慮して週二回だった自動車通勤を週四回に増やした。松田本院までは電車通勤より時間がかかる上、途中の複数ある渋滞ポイントの影響で到着時間が読めないのが困るところだが、窓を閉めておけば自分だけの空間が出来上がる。今までゆっくり聴けなかったサブスクの音楽を聴きながら運転するのは楽しい。車窓風景を眺めたり（天体ショーを見ながら帰る事もできる）、いつも行き合う車のドライバーはどんな人なのだろうと想像したり、トラックの一見ゆっくりに思われる速度が実は最も効率的で最速である事が分かったりと電車通勤とは違う面白さを感じている。電車での通勤はぼんやりしていても目的地に連れて行ってくれるところがとても良いのだが、これからもしばらくこの生活を続けたい。

小田原ならではの眼外傷

医長 近藤 亜紀



眼外傷には地域性があり、都内勤務時は酒に酔って転倒、ホームレスの方が襲われてなど、九十九里の病院勤務時はサーフボードやゴルフボールによるものを診療しました。今秋「栗が落ちてきて眼に当たってしまった」という方が受診され、栗のイガのとげが4本角膜に刺入していました（図1）。うち1本は角膜を穿孔していたため即日手術室で処置し、現在2週間経ち経過良好です。スペインの文献で栗のイガによる眼損傷患者10例（10眼）を検証したものがありませんでした。損傷は角膜損傷に至らない眼球打撲からイガのとげによる角膜穿孔まで多岐に亘り、6例には手術、2例には細隙灯を用いたとげの除去、2例には外来で内科的治療が行われ、1例では経過観察が選択されました。全例が良好に経過したとの事です（García-García GP et al. Ocular Injury With Chestnut Burr: Our Experience. Cornea. 2016 Oct;35(10):1315-9.）。患者様から大きく立派な栗を頂きました（図2）。美味しく頂きましたが、なんだか複雑な心境でした。皆様栗拾い時は十分ご注意下さい。



図. 1

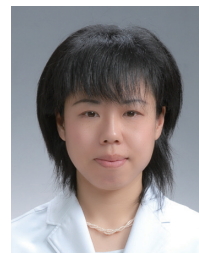


図. 2

※この写真を当誌に載せる事について
事前に患者様にご了解を取っています。

こちらのワクチンもお忘れなく…

医長 戸野塚 敏恵



子宮頸がん（HPV）ワクチンは、平成 25 年から定期接種になっています。対象のお子さん（小学校 6 年生から高校 1 年生）がいらっしゃる方、接種はお済みですか？ 恥ずかしながら我が家の 19 歳、16 歳の娘、未接種だったんです。娘達が適応年齢のころ、HPV ワクチン接種に伴う副反応の重症例が世間に広まり、またその頃住んでいた自治体の案内も消極的だったため、そのまま現在に至ってしまいました。今年、ちょうど自治体から未接種者対象に通知が来たことから娘 2 人、9 月に初回の HPV ワクチン接種を行いました。半年かけて 2 回目・3 回目接種予定です。さて、HPV ワクチン、現在公費で摂取できるものは 2 種類あります。2 価のサーバリックスと 4 価のガーダシルです。そのほか公費対象ではありませんが 9 価のシルガードもあります。2 価でも 4 価でも効果はあるとされていますが、先日新聞に『9 価ワクチンも 2023 年度早期から公費定期接種の対象とする方針を決めた（朝日新聞 10 月 4 日）』と記載がありました。

子宮頸がんは比較的若い年齢層に発症する病気です。ワクチン接種で HPV 感染を予防し、その後は子宮頸がん検診を定期的に受け、子宮頸がん予防・早期発見に努めましょう。

医師会・眼科医会

- 2 月 ～ 5 月 新型コロナワクチン集団接種（計 7 回） 安藤展代 石川暢子
2 月 23 日 小田原休日急患診療所 江口亮
3 月 26 日 中央健保懇話会 加藤晃仁
4 月 ～ 6 月 学校検診
 安藤 浩：神奈川県立大井高校、立花学園高校、松田幼稚園、松田小学校、松田中学校
 寄幼稚園、寄小学校
 江口 亮：神奈川県立吉田島高校、山北高校、岡本小学校、岡本中学校、中村小学校
 井ノ口小学校、中井中学校
 石川 暢子：大井幼稚園、大井第二幼稚園、大井小学校、上大井小学校、湘光中学校
 相和幼稚園、相和小学校、川村小学校
 戸野塚敏恵：南足柄小学校、岩原小学校、山北中学校
4 月 ～ 6 月 新型コロナワクチン集団接種（計 2 回） 石川暢子
9 月 23 日 小田原休日急患診療所 石川暢子
10 月 ～ 12 月 就学時前健診
 安藤 浩：松田町
 江口 亮：南足柄市（岡本小学校）
 石川 暢子：大井町
 戸野塚敏恵：南足柄市（南足柄小学校
 北足柄小学校、岩原小学校）
11 月 1 日 関東信越厚生局集団指導
11 月 3 日 小田原休日急患診療所 近藤亜紀
11 月 ～ 12 月 新型コロナワクチン集団接種
 （計 4 回） 石川暢子



■小田原クリニック 2 階改装工事について

手術室長 木村 智嘉

9月から10月にかけて約1か月小田原クリニック2階の改装工事がありました。手術に来られた患者様とお付き添いの方々が快適に過ごせるように、主に2階で働く看護師や助手が、より働きやすい環境になるように、プランの段階から看護師の代表者や小田原クリニックスタッフ代表者が携わり、終業後の打ち合せを重ねて素晴らしいものができ上がりました。僕もその代表者の一員だったのですが手術の時間が延びたりしてあまり参加できていなかったのも、ここでこんな原稿を書いているのは本当に心苦しいです。

工事期間中は外来も手術もなかったのも手術室のモニターと動画録画システムの新規導入作業をすることができました。令和の時代にブラウン管のモニター（テレビ）があり、映りが悪い時はテレビを叩くという昭和な対処法でやり過ごしていた手術室の光景ともお別れができました。録画システムも今までは家庭用のDVDデッキのHDに録画したものをDVDに焼いていたのですが、新しく導入したシステムではネットワークを介してサーバーのHDに保存され、IDで管理されるので検索も容易に行えます。この工事のおかげで手術室スタッフにもうれしい恩恵が舞い込んだのでした。

■小田原クリニック 2 階改装工事

看護師長 松山 さやか

2021年12月末に院長から改装工事の話があり、2022年1月からゆくりと打ち合わせが始まりました。業務の合間で余裕がない中、外来と手術に忙しい院長をなんとか打ち合わせに参加出来るように調整。どうしてもならない時は江口先生にピンチヒッターをお願いし、しまいには松田本院と小田原クリニックでZoomを使って打ち合わせを行いました。また院長の提案でLINEWORKSを導入し、お互いの時間を気にすることなく情報共有できるようになりました。3月からは週1で打ち合わせ、コロナ感染第7波の7月は出勤停止者が続出する中での打ち合わせで、目が回るほど大変でした。しかしながら完成に1歩ずつ近づく楽しみも日に日に増えていきました。今回の改装で一番考慮した点は、2階スペースの有効活用と患者様の導線です。コロナウィルスのため入院を廃止したのですが、空いた病室を上手く活用できず、手術前後の患者様が混在したり、座りきれない患者様が出るような状況でした。そのため、手術前後の待合室を完全に分離し、患者様が御来院されてから帰られるまで一筆書きで流れるよう何度も何度も図面の修正を重ねました。

このアニュアルレポートを書いているのは改装後1週間。壁が少なく白が基調でフロアが明るくなり、こだわりの患者様導線は狙い通りスムーズです。私達看護師の導線も改善され、無駄な動きがなくなりました。日々の業務は模索中ではありますが、先生方の無理難題にも運用面でカバーできるよう更に努力させていただきます。



■小田原クリニック 2 階リニューアルしました!



フリー

事務部長 加藤 晃仁

『キュッ、キュッ』

昨夜から降り続けた雪も明け方に止み、営業運転前のリフト乗り場で、小麦粉のように細かいパウダースノーが、自分のボードの足元で鳴いている。長野県中部に位置するここ車山高原スキー場は、標高1,925メートルの車山からの眺望と、人工雪のハードなバーンで有名だ。そんな車山も1月下旬から2月中旬にかけて、何度か晴天下でのパウダースノーと圧雪した新雪を堪能することが出来る。今日はそんな貴重な1日だ。始業前のゲレンデ点検に出るパトロール隊員と共に、営業運転前の1番リフトに揺られる。これはスクールインストラクターの数少ない特権のひとつ。誰も滑っていないバーンに、自分のアルペンボードが深いターン弧を描く。ターン後半ボードのテールから雪のスプレーがあがり、結晶が朝日に煌めく。フロントサイドへの切り返しで、自分の体はボードをクロスオーバーしトップエッジが雪面に食い込みながら、さらに深いターン弧を描き始める。

いつの日かまた、抜けるような青空の下で滑る生活に戻ろうと思う。

小田原北条氏（後北条氏）の真実

検査部長 井上 拓己

小田原のシンボルとして、小田原駅西口ロータリーに北条早雲の像があります。早雲の後、氏綱、氏康、氏政、氏直と続き、今でも北条五代祭りとして伝わっています。北条と言えば、鎌倉時代に執権を歴任した北条氏が有名で、小田原の北条氏も同じ一族かと思われがちですが、実は小田原北条氏は鎌倉北条氏とは全く関係がなく、更に言うと初代とされる北条早雲の本当の名前は伊勢新九郎盛時（出家後早雲庵宗瑞）と言い、北条を名乗ったことは一度もありません。この人の出自については諸説ありますが、最近の研究では、室町幕府高官伊勢氏の分家備中伊勢氏の出というのが有力なようです。

北条と名乗ったのは「勝って兜の緒を締めよ」で有名な二代目の伊勢氏綱からで、関東管領山内上杉氏らの従来の勢力に対抗するため、関東ではなじみのない伊勢姓から鎌倉幕府執権として知られた北条姓に改め、家紋も伊勢家の「対い蝶紋」から北条家の「三鱗紋」に変更したと言われています。その後、武田信玄の娘を母に持ち、徳川家康の娘を娶った五代目の氏直の時に豊臣秀吉の小田原征伐により小田原北条氏は滅ぼされてしまいましたが、不思議なことに多数確認されている氏直の文書の中に「北条」を名乗った文書は1通も存在していないそうです。

コロナ禍で広がるスマホ斜視

視能訓練士 山口 優希

コロナ禍でスマホをはじめデジタル機器の使用時間が長くなり、眼を酷使うことで斜視になるケースが増加している。通常は遠方、近方を交互に見るがスマホ使用時などには連続して手元を見ることになる。手元を見る時には、①寄り目（輻輳）、②ピント合わせ（調節）、③瞳孔の縮小（縮瞳）の3つでバランスを保っている。しかしスマホなどの小さな画面を至近距離で長時間見ることが習慣化すると、過剰に輻輳が働き内斜視を発症することがある。症状として、初期には物が二重に見える複視が起こる。時間経過とともにずれた眼の映像を脳がシャットダウンして片眼で見る「抑制」が生じる場合もある。これらを踏まえて当院では、視力が出にくい場合や斜視が疑われる患者様には、斜視検査に加えて日常のデジタル機器使用の有無、頻度などを確認するようにしている。予防対策は、① デジタル機器は30cm以上目から離して使用する。② デジタル機器を30分使用した後は遠方を見て眼を休ませる。ポイントは30である。この2点を守るだけでもスマホ斜視になるリスクは抑えられる。

■ はたらくという事

臨床検査技師 成瀬 弘紀

最近になり、ふと思い出した事があります。それはもう昔、高校を卒業後に通った声優の専門学校での事です。入学当時、演劇に関する学科を合わせると1年生だけでも約400人、そのうち声優科は200人くらいでした。年上の人もいて年齢はバラバラでしたが、やはり同じ歳が多かったと思います。30人ほどのクラスに分けられ、授業内容は、必須科目の他に声優または舞台俳優になるための座学、演技、歌やダンスなど色々なジャンルの選択科目がありました。進級するには必要単位を修得しなければならないので、色々な科目を受けました。様々な事を学びましたが、1年の最後にクラス毎に1つの舞台発表をしなければいけない決まりがありました。クラスの皆で話し合い、題材を決め配役を決め、衣装担当や大道具担当など裏方までを決めました。指導して下さるのは必須科目でお世話になる演出の先生でした。自分は裏方の「制作」をやる事になりました。制作の仕事はクラス皆のスケジュールなどを管理、把握し、集まれる日程などを決め、集まったメンバーで何のシーンを練習するかを決めたりするものでした。初めてのことで、何をどうすれば良いか迷ったり悩んだり、時には意見の食い違いにより衝突したりもしましたが、話し合いを重ねて決めて行きました。本当に大変でしたが、とても楽しくやり甲斐があり色々学ぶことができました。1つの舞台を作り上げるのに、役者も裏方のスタッフも全員が協力しなければいけない大変さを知り、最後の発表が無事に終わると皆で嬉しくて泣きました。

そんな中、舞台発表に向けての練習が終わったあと、演出の先生が突然、ホワイトボードに“はたらく”と書かれ、「君はこれについて何を思う？」と聞かれた事があり、「やはりお金を稼ぐ事です」と答えました。すると先生は、「間違いではないよ。それは“働く”事だ。」と言われ、「私が教えた“はたらく”とは、“端楽”と漢字で書くんだよ」と言いながら説明してくださいました。つまり“端楽”とは、決して自分が端から見ていて楽をしているような人になっては駄目だということ、端から見ていて人（専門学校時代では役者、他のスタッフ）が、少しでも楽になるように自分から行動するよう心がける事だと。このことは働く＝仕事をする上で、全ての業種に当てはまるのではないかと今思っています。全員がこの考え方で行動するのは難しいかもしれませんが、1人でも多くの方が“端楽”を意識し、考えて行動する事ができれば皆が楽しく働けるのではないかと思います。声優になるという夢は諦めましたが、社会人として責任ある仕事を任されている今、忙しさの中にいつの間にか忘れてしまっていることに気づくこともあり、ふと思い出して改めて“端楽”という大切さに気付くのでした。

■ バイク購入と半年乗ったインプレッション

臨床検査技師 梅本 和希

2年前にバイクの免許を一気に大型まで取りました。中型でも良かったのですが、私が欲しかったのは有名なバイク、SUZUKIの隼とKawasakiのZX14-R。今まで予算に見合うものをずっと探してきましたが、ようやく今年5月に色々と目途が立ち、遂に！バイク購入に辿り着きました。バイクの名前：ZZR-1400（ZX14-Rの前のモデル）、年式：2007 マレーシアエディション、排気量：1352cc、最大トルク：147.4N・m、最大出力（馬力）：180PS、走行距離：約42000kmという、中古ですが長年憧れていたバイクです。1～2週間に1回程度、箱根や伊豆を中心にプチツーリングや山中湖一周、そしてライダーの聖地奥多摩周遊道を訪問したりして楽しみました。走っている最中は本当に爽快で、ライダーとしてはまだ未熟な自分にもかなり扱いやすいバイクでした。時速300kmは出る車両なのに、下道でも本当にユーザーフレンドリーです。ただし、パワーの塊のような大型バイクは、丁寧に発進しないと、意外とエンストをしてしまいます。困るのは、車両重量が256kgと非常に重いので、低速時の取り回しは本当に苦労します。Uターンをするにも、注意しないと道路上でバイクを倒す事必至です。そしてオンロードバイクという事もあり、砂利道などオフロードは苦手です。家の前が砂利道なのですが、何が起きたかわからないうちに倒れてしまったことがあります（体はとっさに反応して、バイクから離れていて、怪我はありませんでしたが）。今まで四回ほど倒したのはほぼ砂利道でした。皆様、バイクに乗る際は雨だけではなく、砂利道にもお気を付けください。砂利で傷ついたカウルの修理、再塗装、そしてエンジンガードの購入を検討中です。

■新入職員に聞きました。安藤眼科医院はいかがですか？

あっという間の一年

事務 権守 愛莉

私が当院に入職して一年が経ちましたが、この一年を振り返ってみると様々なことがありました。入職当初は覚えることがたくさんあり、この先やっていけるかどうかとても不安でした。ですが、先輩の皆様が丁寧に教えていただき、それを自分なりにまとめて業務を行ってきました。時には失敗し、注意されることもありました。気持ちが沈んでしまい悲しくなったこともありました。アドバイスをしていただいたり、自分なりに改善しようとしたり、入職した時の自分と比べると少しは成長できたのかなと思います。私は人と接する仕事が好きなので、たくさんの人が笑顔で帰る姿をみた時にとってもやりがいを感じることが出来ます。診察中でもいろいろな患者さんが来院されるので、それぞれの患者さんに合わせた対応をしなければいけないことを考えると、まだまだできることがたくさんあるなと思っています。また手術室の業務では、難しいことがまだまだ多く大変なことの方が多いのですが、自分なりに考えて行動し、それが私自身のやりがいになればいいなと思っています。

挨拶は先手を取って一方通行

ドライバー 田代 美佐夫

安藤眼科医院に入職して一番初めに感じた事は皆さんが挨拶を元気良くできる事でした。今迄私がいた会社ではこれほど徹底して挨拶が実行されてはいませんでした。以前社員教育の一環で研修に行った時、挨拶は先手を取って行う事、挨拶は一方通行で返事を求めているといけないと教わりました。挨拶をするとお互い気持ちの良いものですが中には挨拶の出来ない人もいます。自分が挨拶をしても返事が無かった場合凄く気持ちが悪くなるものですが、挨拶の出来ない人の理由として、恥ずかしい、声が小さく相手に聞こえていない、その人の事が嫌い、等色々あるようです。仕事を気持ち良く進める上ではどうしても他人と関わるのですから、普段からコミュニケーションを良く取り、気持ち良く仕事をする為に必要な手段と考え、朝はおはようございます、その後はお疲れ様、退社時にはお先に失礼しますを、相手から言われて返すのではなく先手を取って自分から言う事で相手の気持ちを良くする、相手の心を開くという意味で私は自分から進んで行う様に心掛けています。

学ぶことが多かった6ヶ月

検査 瀬戸 桃子

入職しこれまでの6ヶ月を振り返った時、毎日が学びで、あっという間だった気がします。私は今まで接客業しか経験がなく、対お客様から对患者さんになり接し方も大きく変わり、初めはとても戸惑いました。また、眼科という未経験の世界で覚えることが山ほどあり、勉強が追いつかず一日が一瞬で過ぎていき不安もありました。ですが、分からないことがあれば先輩の方たちが優しく根気強く教えて下さり、奮闘しながらも充実した毎日です。まだまだ検査に時間はかかってしましますが、少しずつできるようになり以前より患者さんとの会話も楽しめるようになってきました。今後は、専門的な知識も少しずつ勉強し、接客業の時の経験を活かし患者さんの声に寄り添っていきたいです。また、夏に体調を崩し迷惑をかけてしまうことが多くこのまま続けていけるのか…と不安に思ったこともありました。皆様が支えて下さり、挫けず続けられて本当に良かったです。感謝しかありません。これからも様々なことを吸収して一日でも早く一人前の検査員になれるよう日々努力していきます。

半年を振り返って

臨床検査技師 飯嶋 希和子

安藤眼科医院に入職し半年が経ちました。前職では主に生理機能検査を行っており、眼科の経験はありませんでした。そのため入職時は不安が大きかったですが、皆さんから優しく丁寧に教えて頂けたため挫けずに続けることができています。実際に検査を行ってみると、初めは戸惑うことが多く検査が素早く行えず、患者様に迷惑をかけることがあり、また不安にさせてしまうことがありました。患者様は見えにくいことに不安を抱えているため、安心して検査を受けて頂けるためには、検査をスムーズに行い、患者様一人ひとりに寄り添うことが重要だと実感しました。入職してからの半年を振り返り、できなかったことが少しずつできるようになり、達成感を感じながら仕事に取り組んでいます。まだ分からないことも多く、皆さんにご迷惑をかけることもあります。一日でも早く皆さんの一員となれるように精進してまいりますのでこれからもよろしくお願いします。

2022 年の思い出

- 1 月 8 日・27 日 コロナワクチン接種 3 回目
- 2 月 24 日 視野計 imovifa 導入 (松田本院・南足柄クリニック)
- 4 月～ 前東大教授 新家 眞先生による緑内障特別外来開始
(毎月第 1 土曜日の次の月曜日午後)
- 4 月 8 日 春の防災訓練
- 5 月 16 日 愛 to eye 第 15 号発行
- 5 月 20 日 LGBTs 講習
- 9 月 23 日 小田原クリニック 2 階リニューアル工事
- 10 月 16 日
- 11 月 18 日 秋の防災訓練
インフルエンザワクチン接種



改装・修理・点検

松田

- | | | | |
|-----------|-------------------------|-----------|------------------|
| 1 月 21 日 | キャノン OCTA S-1 バージョンアップ | 6 月 17 日 | エレベーター定期点検 |
| 2 月 6 日 | ワックス掛け | 8 月 7 日 | ワックス掛け |
| 2 月 24 日 | 視野計 imovifa 搬入 | 8 月 20 日 | NAVIS サーバー入れ替え |
| 3 月 9 日 | エレベーター定期点検 | 9 月 21 日 | 消防設備点検 |
| 3 月 18 日 | NAVIS セキュアネットワークライセンス更新 | | エレベーター定期点検 |
| | 防災設備点検 | 10 月 5 日 | 診察室 5 NAVIS 端末増設 |
| 4 月 12 日 | imovifa 解析ソフト用ライセンスアップ | 11 月 16 日 | NAVIS 端末入れ替え作業 |
| 5 月 3～5 日 | 污水管入れ替え工事 | 12 月 12 日 | エレベーター定期点検 |
| 6 月 10 日 | 診察室 1 NAVIS タッチモニター交換 | | |

小田原クリニック

- | | | | |
|-------------|-------------------------|--------------------|--------------|
| 1 月 28 日 | 浄化槽定期点検 | 8 月 26 日 | PC キットティング作業 |
| 2 月 4 日 | 3 階西側倉庫調査 | 9 月 23 日～10 月 16 日 | 2 階リニューアル工事 |
| 3 月 18 日 | NAVIS セキュアネットワークライセンス更新 | 10 月 3 日 | 1 階ワックス掛け |
| 4 月 3 日 | ワックス掛け | 10 月 21 日 | エレベーター定期点検 |
| 4 月 4 日 | エレベーター定期点検 | 10 月 30 日 | ワックス掛け |
| 5 月 14～16 日 | エレベーターピット水漏れ工事 | 11 月 3 日 | 外壁洗浄 |
| 6 月 27 日 | 消防設備点検 | 11 月 12 日 | 電気設備法定点検 |
| 8 月 9 日 | 視力計入れ替え | 11 月 21 日 | 消防設備点検 |
| 8 月 22 日 | レーザー機器移設確認 | | |

南足柄クリニック

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------|------------------------|
| 1 月 10 日 | ワックス掛け | 2 月 24 日 | 視野計 imovifa 搬入 |
| 1 月 11～2 月 17 日 | ヴェルミ 2 外壁開口改修工事 | 2 月 26 日 | 法定電気設備点検 |
| 1 月 21 日 | コピー機入れ替え | 4 月 12 日 | imovifa 解析ソフト用ライセンスアップ |
| 2 月 4 日 | ヴェルミ 2 棟消火訓練 | 11 月 18 日 | NAVIS サーバー電池交換 |
| 2 月 17 日 | 消防設備点検 | | |

■学会・勉強会

1 月 28 日～ 30 日	日本眼科手術学会学術総会（東京） 安藤浩 安藤展代 江口亮 石川暢子 近藤亜紀
2 月 10 日～ 12 日	日本角膜学会（金沢） 石川暢子
4 月 14 日～ 17 日	日本眼科学会総会（大阪） 安藤浩 安藤展代 江口亮 石川暢子 近藤亜紀
5 月 13 日	バビースモ硝子体注射液 WEB 説明会
5 月 27 日	Clareon PanOptix 勉強会
6 月 24 日～ 26 日	JSCRS 学術総会（京都） 安藤浩 安藤展代 江口亮 近藤亜紀
9 月 16 日～ 18 日	日本緑内障学会（横浜） 安藤浩 安藤展代 近藤亜紀
10 月 13 日～ 16 日	日本臨床眼科学会（東京） 安藤浩 安藤展代 江口亮 石川暢子 戸野塚敏恵 近藤亜紀
10 月 15 日	リレックススマイル研究会 安藤浩参加
10 月 18 日	グラウコスジャパン社セミナーパネリスト 安藤浩
11 月 26 日	日本眼科 AI 学会総会（京都） 安藤浩
12 月 2 日～ 4 日	日本網膜硝子体学会総会（大阪） 安藤浩 江口亮

■送迎車「すっきり号」マネージャー補佐になって

事務兼小田原すっきり号マネージャー補佐 土屋 志帆

安藤眼科医院に入職し、送迎車「すっきり号」のマネージャー補佐を務めさせていただいてから 2 年半が経ちました。入職当初は事務業務と「すっきり号」業務と覚えることがたくさんあり、せわしない日々を過ごしていました。ドライバーの方や同じく送迎車担当の先輩方にご迷惑をおかけすることばかりでしたが、皆様のおかげで現在では少しずつ日々の業務に落ち着いた気持ちで取り組めるようになりました。

今年の 9 月から新しい取り組みとして、当院から距離がやや離れた眼科クリニックから直接、患者様を送迎する仕組みを作りました。手術や検査の日に合わせて、手術と手術前後の送迎を効果的に行うことで、安藤眼科医院へのアクセスが容易になり、また、来院回数が必要最低限になり患者様の負担も減ります。患者様は便利になって喜んでおられるようです。皆様方のご協力誠にありがとうございます。

様々な理由で送迎車「すっきり号」を必要とされている患者様の為にも、引き続き感染対策や事故防止に気をつけながら運行を続けてまいります。

■ひとみすっきり号運行

今年の利用者は延べ 2833 人、月平均 236 人でした（予定含む）。現在すっきり号は 4 台、ドライバーは 5 名で松田本院と小田原クリニック間、足柄上郡松田町寄地区、山北町中川地区・清水地区に定期便を運行、足柄上郡全域と小田原市については手術日と翌日診察について door to door の運行を行っています。

■ スタッフ

常 勤 医	： 安藤 浩 近藤 亜紀	安藤 展代	江口 亮	石川 暢子	戸野塚敏恵
看 護 師	： 井上 拓己 香川奈美子 鈴木 理絵	甲斐 智美 加藤 知佳	榎本 和美 露木 ちか	松山さやか 工藤奈津美	藤田 孝枝 堤 夏樹
臨床検査技師	： 木村 智嘉 梅本 和希	志村 舞 今田 博久	十文字 恵 飯嶋希和子	新村 瑞希	成瀬 弘紀
視 能 訓 練 士	： 山口 優希	白井 良			
検査看護補助	： 山室 智子 矢部 美佳	高橋 京子 田近麻里絵	山川久美子 小林 千絵	岡田真由子 瀬戸 桃子	鈴木亜也子
事 務	： 加藤 晃仁 近藤 里奈 関 麻子 土橋 祥子 生水 里美 伊部 誉子	小寺 弥生 波多野麻里亜 奥村 明奈 木村芽久未 星野 友美 田中 優希	加藤 明子 山口いづみ 本多久美子 関野 芙美 小島 絵美 金園 藍	山岸 友希 宮下千加子 渡辺 孔美 高田 里沙 鍵和田利奈 土屋 志帆	飯山百合子 鈴木 雅美 町田 裕子 熊本 靖代 野地 真弓 権守 愛莉
ド ラ イ バ ー	： 米山 俊彦	和田 弘	生沼 等	松島喜久朗	田代美佐夫

【赤字：産休中あるいは育休中 青字：今年の新入職員】

■ 2022年皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々です。拍手！

甲斐智美 小寺弥生 山室智子 宮下千加子 山川久美子 関麻子 渡辺孔美 町田裕子 新村瑞希
関野芙美 鈴木亜矢子 生水里美 露木ちか 星野友美 鍵和田利奈 梅本和希 白井良

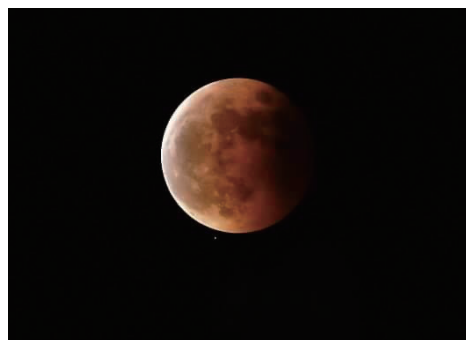
■ 次の方が退職されました。お疲れ様でした。

土屋邦明さん、金田浩子さん、笹原諒平さん、梶浦充敏さん、望月美幸さん、後上里弥生さん

■ 編集後記

アニュアルレポート 2022 を読んでいただきありがとうございました。コロナ禍も早や3年となり、去年まではコロナ中心の記事ばかりでした。しかし今年はいえ題材を設けませんでした。その結果色々な話題が出ましたので、スタッフの別の一面を見ることもでき、楽しいものとなりました。

今年一番の話題は小田原クリニック2階の改装工事でした。スタッフ一同の自慢となった、リニューアルした小田原クリニック2階の写真を、ほんの一部ですが掲載しましたので見て頂けたらと思います。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2022年12月 編集長 成瀬 弘紀

